



# やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

「あいさつ」「なかま」「まなび」を土台に、支え合い、認め合い、高め合って

コロナ禍という長いトンネルの出口が見え隠れしているような、なんとか向こうの明るい世界にたどり着きたい、そんな令和3年度に入りました。

昨年度のはじめと比べ、新型コロナウイルス感染症対策については、向き合い方がわかるようになってきています。何に注意しないといけないか、状況を見ながら取り組んでいきたいです。

今年度は74名の新入児童を迎え、矢倉小学校は全校児童544名となりました。

始業式では、「あいさつ」で互いの思いや立場を気遣う「支え合い」を大事にしよう。「なかま」だからこそできることがあり、お互いを認め合って、高まり合えるようななかかわり方をしよう。その上で、自分の生き方をみつめ、やりがいのある取りくみができる、そんな「学び」をしていこう。このようなお話を子どもたちにしました。

教職員には、外側の論理、いいかえれば見栄えや出来栄えといったことに振り回されるのではなく、本来学校が果たさねばならない教育指導、つまり生きていく上で大切なことを身につけ、学ぶこと、よりよく生きていこうとする力を育てていくこと、ここに力を入れるよう求めました。

人と人とのつながりが分断され、孤立していかないようにという願いをこめ、学校教育の役割について再確認した次第です。今年度もどうぞよろしくお願いします。 校長 大林 道範

